

沖縄県サンゴ礁保全推進協議会会長
中野義勝

沖縄を含む琉球弧の島々はサンゴ礁に育まれてきました。これらの島々に暮らす私たちに、サンゴ礁は食・住のみならず心の安寧も保証してくれました。サンゴ礁生態系の機能の多くが、飛躍的に発展したテクノロジーで代替可能となった現代社会においても、程順則のひいた六論衍義に言う「郷里と和睦する」といった地域のアイデンティティ確立の価値は衰えることなく、むしろ増しているものと思います。2010年に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）で採択された愛知目標の達成に向けて、締約国として国内で整備された「生物多様性国家戦略 2012-2020」の下、2013年に沖縄県においても生物多様性地域戦略「生物 多様性おきなわ戦略」が策定され、サンゴ礁も多様性保全において新たな価値を与えられるとともに、生物多様性保全は地域の活動に重きを置くことが確認されています。2016年に改訂された環境省による「サンゴ礁生態系保全行動計画 2016-2020」でも地域レベルでの活動が保全の柱の一つに据えられています。これらの動きの中から、多くの市民の生活する県庁所在地那覇市・世界遺産首里城から望める新たな国立公園として「慶良間諸島国立公園」や「やんばる国立公園」が指定され、琉球列島の世界自然遺産登録を視野に奄美群島の国立公園指定の準備も進んでいることは意義深いものです。

一方で沖縄県では過度な開発により既に多くのサンゴ礁が失われ、残されたサンゴ礁も世界規模で発生する白化現象や、赤土や汚水による汚染・オニヒトデによる食害など地域規模の攪乱にも曝されており、サンゴ礁生態系に由来する文化もまた危機に瀕しています。このような危機の認識を深め共有し、サンゴ礁を新たな地域文化創出のための資源と位置付け、持続的に利用してゆくためのルール作りなど適応的な行動が求められています。この様な背景から、当協議会はサンゴ礁保全に関わる多くの主体の連携を促す機関として2008年に設立されました。趣意書では「様々なサンゴ礁保全への取り組みを相互に連携させて持続的に進めていくことの大切さ」が確認され、「持続可能なサンゴ礁の利用による地域づくりをすすめ、多様な参加と協力が行える仕組みを用意することの必要」を標榜し、ホームページでの情報発信・会員の情報交換会やシンポジウムの開催などとともに活動助成を行ってきました。2014年からは、サンゴの日を中心に「おきなわサンゴ礁ウィーク」を主唱し、さらに多くの主体の参加によって多くの市民のサンゴ礁への関心を喚起することとしました。4回目を迎え「サンゴ礁ウィーク」として全国に展開し、来年の第3回「国際サンゴ礁年」（交際サンゴ礁イニシアティブ主催）にも向けて、この週間の環がさらに広がるよう今後とも働きかけてゆきたいと思います。